

学都屋台食談

第9回

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、石川県に拠点を構える企業経営者や大学学長らが講師となり、講師の経験をもとに学生と語る「学都屋台食談」が11月10日から12月2日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催されました。2006年から今年で12年目を迎え、講師と県内の大学に通う学生が和やかに繰り広げた食談で、講師が学生に熱く語られたメッセージを紹介します。第9回は細野昭雄・アイ・オー・データ機器会長。

進化する明日へ Continue thinking

I-O DATA

企画/榊都市環境マネジメント研究所

横並びではなく 自分の価値観を大切に

今日来た5人の皆さんのケータイは、当然、スマホですよね。機種を当ててみましょう。少なくとも4人はiPhone。ずばり、正解でしたね。

iPhoneは、今や日本のスマホ市場で圧倒的なトップシェアです。では、皆さんは、さまざまなスマホがある中から、どのような理由でiPhoneを選びましたか。私が日本の市場やユーザーを見るに、一番の理由は、みんながiPhoneを使っていることではないでしょうか。

日本人は髪も肌も同じ色の民族です。そのためか、まわりと同じが良いことで、人と違うことは良くないことと考える傾向があります。ただ、周囲と同じことをしている、先んじて変化に対応できず、リードすることもできません。これから、世界はますます変わっていくでしょうからなおさらです。

iPhoneを使うなど言っているのではありません。完成度の高い魅力的なスマホです。ただ、何かを選択するとき、その選択肢の何が良いのか、なぜそれを選ぼうとしているのかを、自分自身の価値観にしっかりと問いかけてほしいのです。

面白さと達成感が 選択の判断材料

スマホ程度であれば、まわりに合わせて選ぶのも構いません。しかし、これから人生の岐路に立つときが必ず来ます。そのときこそ、自分の価値観を見つめることが大切です。

私自身、最初の岐路は就職でした。当時、工業高校の電気科で学んでいて、卒業後は電力会社や大手メーカーに就職するのが当たり前でした。私も某メーカーから内定をもらっていました。

しかし、選んだのは、かほく市にある小さな電子計算機メーカー。高校生でしたから、あまり深く考えていない面もありましたが、「きつと、面白いことができる」という直感が働きました。

ICが登場する以前の、コンデンサやトランジスタをハンダでつなぎ、コンピューターを手作

りしていた時代です。当然、親に猛反対され、教師からも「お前は分らん奴や」とあきれ果てられました。

その後、その会社から大学へ移って学生兼助手として学内ベンチャーに携わり、そこからのスピンオフを経て、今の会社を創業するまで紆余曲折がありました。その数々のターニングポイントでは、毎回、「面白くて達成感があるか」を重視していたように思います。おかげで、新しい産業が生まれ、ダイナミックに世界へ浸透していく最前線で、働き続けることができました。

未来が分らないからこそ さまざまなることに興味を

皆さんには、しっかりと自分の核を作ることに加え、違いを埋めるのではなく、違いを認め、生かす姿勢も身に付けてほしいと思います。それは、多様性が余裕と遊び心の源泉になるからです。

当社の新製品で、スマホ内の音楽と連動するカラオケマイクが、今ちょうど注目を集めています。技術力を誇る製品ではありませんが、その遊び心がユーザーに刺さりました。目前の課題は、真面目に取り組むことで、大抵解決できます。しかし、未来を見通すことは誰にもできません。だからこそ、今さまざまなことに興味を持って受け入れることが、5年後、10年後の課題を解決する種になります。違いを受け入れる余裕と生かす遊び心は、地平線の向こうにあるハードルを飛び越えていくエネルギー源なのです。

遊び心は未来を切り開くソリューション



講師

株式会社アイ・オー・データ機器
代表取締役会長

細野 昭雄氏

ほその・あきお

1944年、石川県金沢市生まれ。62年、石川県立工業高校電気科を卒業し、ウノケ電子工業(現PFU)に入社。65年、金沢工業大学の情報センター職員に。70年、パンテック・データサイエンス(現エヌジェーケー)入社。76年、アイ・オー・データ機器を設立、代表取締役社長に就任。2017年9月、代表取締役会長に就任。



参加生

前列左から堀田千奈津さん(金沢星稜大学2年)、野屋成美さん(北陸大学3年)、後列左から、臼田圭佑さん(金沢工業大学3年)、山崎圭亮さん(金沢大学3年)、中井ひかるさん(金沢学院大学3年)